

令和8年度 社会福祉学部 学校推薦型選抜

【出題意図】

文章の理解力，判断力，論理的思考力，設問の趣旨に沿って表現する力をみる。

【解答】

問1 (解答例)

伝統的なアイデンティティ概念は，その人が今「どういう人であるのか」という「being」な存在としての人間理解を基盤としており，一度形成されると，生涯を通して変化することはないと考える。著者が論じるアイデンティティ概念は，その人が今から「どうなるのか」や「どうなろうとしているのか」に目を向ける「becoming」な存在として人間を理解しようとする。それにより，今はまだできないことでも，挑戦して，将来はできるようになっている自分を考えることができる。(225字)

(採点基準)

- ・being と becoming の概念を本文に即して使うことができている。
- ・伝統的なアイデンティティ概念と，著者が提案するアイデンティティ概念を対比させて両者の違いを明確に述べている。
- ・文章が完結しており，文字数制限が守られている。
- ・文章構成が適切であり，誤字・脱字がない。

問2

個別の解答が予想されるため，解答例は示さない。

(採点基準)

- ・「自分らしさ」と「being」(〇〇である人)を対応させている。
- ・「自分らしくなさ」と「becoming」(〇〇になろうとする人)を対応させている。
- ・自分らしさを確立させようと being な自分にこだわるあまり，becoming な自分の可能性(発達の可能性)を失うことになることがわかる事例を述べている。
- ・他者に対して(あるいは他者と一緒に)パフォーマンスする事例を述べている。
- ・他者へのパフォーマンスは「自分らしくないこと」である事例を述べている。
×「自分らしいこと」＝「他者がいなくても一人でできるパフォーマンス」を他者へみせることではない。
- ・文章が完結しており，文字数制限が守られている。
- ・文章構成が適切であり，誤字・脱字がない。